

(10) 東中筋小学校

学 校 長 濱口 明大

校内研究代表者 小嶋 里佳

1. 研究主題

『主体的な学びを生み出す授業づくり』 ～ふるさとに学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成～

2. 研究主題設定の理由

本校の児童は、素直で、与えられた課題に対して真面目に取り組む。年度末に行ったC R Tテストの結果では、全国比+3 ポイント以上の学年もあり、基礎学力には一定の向上が見られた。しかし、高知県学力状況調査等で、県平均を下回るなど、学年によって学力定着に差が見られる。

昨年度は、前年度までの研究を引き継ぎ、研究主題を「伝え合い、認め合い、ともに高め合う児童の育成」とし、研究に取り組んできた。学力の土台となる、お互いに認め合い、高め合う学習集団の育成を基礎とし、新学習指導要領の趣旨でもある、『見方、考え方を育む資質・能力ベースの授業づくり』を目指すこと、さらに自分の考えを持ち、より主体的で深め合う「とも学び」にまで高めていきたいと考えて授業スタンダードの徹底を図った。

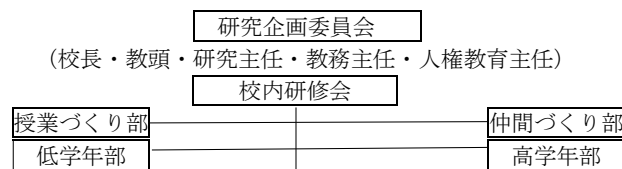
その成果として、本校の授業スタンダードの定着、学習リーダーを中心に児童の対話を大切にした授業づくりの場で、ホワイトボードやICTを活用し、表現の手法をふやしたことや既習内容の提示の工夫で、自分の考えを表現できる児童は増えてきた。しかし、多様な考えを出し合うことや、出された意見を深め合う活動には課題が残った。検証をもとにした更なる授業改善として、「ひとり学び」を深めるための手立てや「とも学び」を深めるための教師の支援のあり方を、引き続き算数科を柱として追究していきたい。

また本校は、周囲を川や田んぼ、山など豊かな自然に囲まれている。学校近くには集合住宅があり、隣接保育所と本校の児童も居住しているが、高齢者が多く、静かな環境にある。地域住民の子どもへの関心は高く、以前は地域住民や高齢者との交流など地域を交えた行事も盛んに行われ、地域へとび出し、地域の豊かさに触れる体験ができていた。しかし近年、新型コロナウイルスの影響で、それ以前に行われていた行事はほとんどなくなってきている。昨年度「コロナ感染症」が5類に移行してから徐々に地域との交流の取組を再開してきたが、コロナ禍前に在籍していた教職員や児童が少なくなったこともあり、地域に学ぶことで、現行学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学習」を実現することに大きな壁を感じている。

そこで本年度は、研究主題を『主体的に学びを生み出す授業づくり』、サブテーマを～ふるさとに学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成～とし、各教科で学んだ知識・技能が生きて働き、教科で磨いた思考力・判断力・表現力が（地域の）未知の状況や課題に対応するためのツールになるような①生活科・総合的な学習の時間の新たなカリキュラム等の研究と、前述の②算数科を支柱としたより良い授業等のあり方の追究（①と②）を両輪とする研究を進めていきたい。

3. 研究の進め方と方法

* 研究組織



* 研究日・・・毎週水曜日（14：40～16：45）

毎月第1週…職員会・ハート委員会（学級の実態報告と気になる児童の実態把握）

第2～4週…校内研、教材研究、授業研究

* 校内研究授業・・・1, 3・4, 5・6年は生活・総合、2年は道徳、4年は算数、特支学級は公開授業

4. 具体的な取組

(1) 生活科・総合的な学習の時間における授業・活動実践

① 3・4年生 『「中筋川」と人々の暮らしについて調べよう』

- 水質・水生生物調査（中流）
- 地域・行政職員の方々等からの聞き取り
- 上流域・ダムの見学 ● 下流域・アロインス工場見学

アウトプット例

- ・ 学校新聞づくりコンクール（中学年の部）金賞受賞
- ・ 高知県デジタル作品コンクール 優秀賞受賞〔最高位〕
- ② 5・6年生 『東中筋のよさを発信しよう』
- 田植え・稲刈り・販売体験 デコイ製作・設置
- 地域の方々等からの聞き取り・取材
- 地域のお祭りで学習成果を発表

アウトプット例

- ・ 短編映画「ヘブン ヒガナカ」制作・上映…安藤 桃子監督指導・監修
- ・ オンライン交流（つるの里づくりに係る交流）…愛媛県西予市立石城小学校
- ③ 1年生 『たのしい あき いっぱい』
- 隣接の保育所園児との交流 ● 秋を探して地域めぐり
- 地域の高齢者施設との交流（クリスマスツリーや門松を製作・飾り付け）

（2）その他の授業改善・授業研究の取組

- ① 算数科「複式授業の研究を見据えて」4年生 『倍の見方』
- ひがなか授業スタンダード ● 学習リーダー&ペア学習の手引き
- 構造的な板書・学びの跡がみえるノート～形式等の統一 等
- ② 特別の教科 道徳 2年生 『してはいけないこと ～“道徳のひがなか”の継承』
- 「道徳便り」の定期発行 ● 道徳の実践につながる様々な掲示
- 「高知の道徳」の継続的・計画的な活用

（3）外部講師からの特別支援教育・生徒指導等の視点からの学び

- 鳴門教育大学 久我 直人 教授 } 全学級の（授業）通覧
- 高知大学 是永 かな子 教授 } 学級・個々の児童に係る指導・助言



5. 成果と課題

○成果 ●課題 ◎次年度に向けて

- あまり慣れていない生活・総合に関わる研究テーマであったが、先進校の取り組みや強みである地域とのつながりを強化させることをテーマに据えることで一貫性ができてよかったと思う。
- それぞれの担当が取り組み内容を精選し、検証をしていくことで、次年度への取組につなげていくことが必要
- ◎ 学期毎や中間検証時に限らず、短いスパンでの検証と報告をすれば、授業研や日々の授業等にもタイムリーな形で反映できるのではないだろうか
- 協議の視点を絞り協議を行うことで成果や課題が明確になり、時短にもなった。
- 教科が分かれた分、つながりをもたせることが難しかったように思う。
- 学級単位での協議は深まったが、（公開授業の）教科が同一でなかったため、授業と授業をつなげにくかった。
- ICT 研修の中で情報交換等ができ、新しいことを学ぶ良い機会となった。学んだことを実際に授業等で使うことができた。また、研究授業の中で（タブレットを）どう使えばよいか一緒に考えていただけて助かった。
- 児童同士で考えを見合う時に、ロイロノート（提出箱）の共有がとても効果的だった。
- 毎日、文房具のように使うという学校・県・市の目標に到達できない時期があった。
- 久我先生（鳴門教育大）に児童を見ていただき、学級経営等を教えていただいたことや、是永先生（高知大）から児童をみていただいた後にご助言いただいたことで、たくさん参考になることがあった。
- ◎ 講師招聘の回数が多く慌ただしかった。研修を事後に活かすために、落ち着いて研修に取り組めるよう何ののために講師を招聘するのか目的を明確にし、講師の招聘（回数を）精選していく。
- ◎ 複式授業・指導の国語科についても話を伺いたい。
- ◎ 研究テーマについて 来年度の複式研等に向けて、今年度中に具体的な方向性を考えていく。
- ◎ ICT 活用についての情報共有は引き続き行い、学級での実践に生かせるのにしていく。
- ◎ 今年度の取組を分析、検証したうえで、改善案を出し合い、来年度もより良い取組を行っていく。